

平成27年度第2回西宮市協働事業提案審査会 会議録（要約）

日 時：平成27年8月10日（月）10時00分から11時40分

場 所：西宮市職員会館3階大ホール

出席者：【委員】直田 春夫（会長）、川東 美千代（副会長）、横田 祥子、石井 道信

【事務局】市民協働推進課長 三村 嘉伸、同係長 松野 歳之、

同副主査 後藤 理恵、同主事 水間 由依

○開会

- ・委員の互選により、直田春夫氏が本審査会の会長に、川東美千代氏が副会長にそれぞれ選任された。
- ・市民協働推進課長より挨拶の後、委員紹介があった。

○事務局

- ・（当日の進行に関する説明）

1 提案につき20分を予定。事務局説明・提案者から補足説明 PR で約5分、委員からの質疑に約15分。会長進行で開始。

1 番目の事業「苦楽園キッズタウン ～世界と日本の食文化～」について

○会長

事務局から説明を。

→事務局から事業概要の説明。

では提案者から、事業説明、PR をお願いしたい。

→提案者から事業の説明。

次に、この事業の関係課である文化スポーツ企画課と健康増進課からそれぞれ説明をお願いします。

○関係課：文化スポーツ企画課

世界各国と日本の食文化の対比を中心に事業を実施するとともに、参加した子どもたちに食のありがたみを感じてもらえるように、健康増進課と連携して事業を進めていきたい。

○関係課：健康増進課

本市では、食育・食の安全安心推進計画にもとづき、食育と食の安全安心を一体的に推進しているところであり、食育に関しては小学生がターゲットとして最も適切である。本事業での体験を通じて、食育や食文化について学んでいただくことは、子どもたちにとってとても貴重な経験になると同時に、食育の推進という点からも効果的であると考えている。

○会長

では、各委員からの質問をお願いします。

○委員

収支予算書によると 15 店舗での実施となっているが、参加店舗が集まる目途は立っているのか。

◇提案者

現時点で参加の意向が確認できているのは 6 店舗であるが、この事業に対する意識・関心は非常に高く、15 店舗の参加は確実に達成できると考えている。

○委員

人に何かを教えるというのは非常に大変なことであるが、その点についてどのように考えているか。

◇提案者

参加店舗の多くが、常日頃から料理体験などを事業の中に取り入れて実施している。

○委員

世界と日本の食文化の対比とあるが、15 店舗の内訳はある程度決まっているのか。

◇提案者

現時点における見込みとしては、和食が 5 店舗、イタリアン及びフレンチが約 6 店舗、その他タイ料理、ケーキ店などが 4 店舗である。

○委員

収支予算のうち、ポスター・フライヤーの印刷製本費とデザインに係る委託料で 29 万円となっており、事業費に占める割合が非常に大きくなっている。例えば、子どもたちからポスターのデザインを募集し、良い作品には賞品を出すなど、地域に根ざした広報を行うという方法もあると思うが、その内容と必要性について聞かせてもらいたい。

◇提案者

自身の苦楽園バルの実行委員長としての経験から、収支予算書に計上している金額が妥当と考えている。子どもたちからデザインを募集するのは、これまで思いつかなかったが、良い考えと思う。

○会長

1 店舗あたりの参加人数には限りがあると思われるため、参加者が複数の店舗を回るのではなく、一人の子どもが一つの店舗で体験するというイメージでいいか。

◇提案者

はい。

○委員

店舗によって開催日が異なると思われるが、保険料は収支予算書に記載の 5 千円でまかなうことができるのか。安全第一で実施するのはもちろんだが、万一に備えて保険についてもしっかりと考えていただきたい。

◇提案者

キャンドルナイトを年間運営した場合の保険料が 5 千円となっており、保険会社からはこの金額で対応可能と確認している。安全面については、保険加入以外にも、店舗における安全策として、

店舗の規模に応じた受入人数にするなど、細心の注意を払って運営したい。

○会長

収支予算書に報償費として講師謝金が計上されている。外部から講師を招くのではなく、提案団体メンバーが講師を務めるのであれば内部での支払いとなるが、この点についてどう考えているか。

◇提案者

インターネットで調べたところ、講師料は10万円以上というのが多かったのだが、子どもたちへの教育という趣旨から、この金額が妥当であると判断した。

○会長

金額の多寡ではなく、提案団体の中で謝金を支払うという点について伺っている。プロの料理人が講師を務めるに当たり経費がかかるのは確かであるが、収益をあげる事業ではないということを留意していただきたい。次に、その他事業費として参加者プレゼントとあるが、これについてはどのようなイメージを持っているか。

◇提案者

この日の記念品として、収支予算書に記載しているバッチに加えて、料理に関するアイテムとしてエプロンを製作しようと考えている。

○会長

街の中で実際に動いている店舗でこのような体験ができることは、店の面白さを知ることができるなど、子どもたちにとって良い機会になると思われる。

◇提案者

今回、10～20年以上営業している店舗やミシュランで星を獲得した店舗が参加予定であり、親も参加したいと思える事業になっている。

○委員

市と協働事業を実施する際に、関係者は知っているが、地域は協働事業について何も知らなかったということがよくある。青少年関連や自治会など、地域の様々な団体にも声をかけて、そのような団体からの助力を得ながら事業を実施していただきたい。

◇提案者

バルイベントなどを通じて色々なつながりが生まれているので、そのようなつながりを活かして、地域の方にも楽しんでいただける事業内容にしたい。

○会長

対象が子どもたちなので難しい部分もあると思うが、講師にとって新しい視点を開かれる機会になるかもしれない。

それでは時間になったのでこれまでとする。結果は後日、事務局からお伝えする。

以上で本日のプレゼンテーションを終了する。

〈第2部 審査〉非公開

○会長

では「苦楽園キッズタウン ～世界と日本の食文化～」について、採点結果は採択となるが、各委員から意見をお伺いしたい。

○委員

実現可能性について、この事業を実施するには相当のエネルギーが必要と推測する。提案者の思いがあっても、計画通りにいかない可能性もある。それでも、関係課としてこの事業を実施したいと考えているのか。参加人数が少なくても、チラシやフライヤー等の費用は全てかかってしまう。費用をかけた割には結果的に効果の低い事業となってしまうが、その点について、関係課の考えを聞かせてもらいたい。また、その場合における費用面のリスクは、提案者側ではなく、市側が負うということなのか。

◇関係課：文化スポーツ企画課

実現可能性については、苦楽園ストアーズミーティングの過去の実績や事業内容に対する保護者の関心も高いと推測されることから、定員以上の申し込みがあると見込んでいる。

◇事務局

結果的に事業効果が低くても、この事業で執行した印刷製本費等の費用は助成金計算の対象となるため、費用面のリスクは市が負うことになる。

○委員

定員を上回る申込を受けた場合の対応は。また、各店舗何名ずつという形態ではなく、全体で60名の募集を行うのか。

◇関係課：文化スポーツ企画課

苦楽園ストアーズミーティングが店舗ごとの受入可能数を把握した上で、店舗ごとに先着順で申込を受け付ける。希望の店舗が埋まっていれば、他の店舗を紹介する。

○委員

応募者が多かった際に混乱することがないように注意していただきたい。

○委員

子どもたちは料理体験をすることで精一杯で、各国の食文化や食育について、シェフが子どもたちに説明するということにまで至らないのではないかと。60人全員を1箇所に集めて、授業形式で説明し、その後各店舗に移って料理体験ということであれば理解できるのだが、今回の形式で食育の推進を図るのは困難ではないか。

◇関係課：文化スポーツ企画課

健康増進課の栄養士が、実際に子どもたちに説明するシェフに対して、食育や世界の食文化との対比など、今回の事業において必ず説明すべき内容をしっかりレクチャーする機会を事前に設けたい。

○委員

千円出して美味しいものを食べて終わったというのでは、本来の目的が達成できないので、その点はしっかり留意していただきたい。

○委員

中華料理や韓国料理など様々な国の料理店が参加すれば、世界の食文化というテーマにふさわしいと思われるが、現在提案者が考えている参加店舗では偏りがあるように感じる。

○委員

苦楽園には様々な専門店がある。単に美味しいものが食べられる機会が終わらないように、そのような店舗も巻き込んで実施してもらいたい。

○会長

ある国の料理店が、他国の料理を作ったらこのようになるなど、店舗側にもひと工夫が求められるのではないかと。また、食材は世界の様々な国から輸入されているので、その経路を教えることで、子どもたちが世界を感じられるとともに、食に対する関心を高めることが期待できる。

○委員

一方で、地産地消という要素を取り入れることで、西宮の農業などを理解してもらえる機会にできる。

○委員

単純に全体の事業費を参加人数で頭割りすると、一人当たり 11,500 円の経費がかかることになる。

◇関係課：健康増進課

当課では毎年食育フェスタを開催しており、その中で、料理体験や和菓子作りは抽選になるほど人気が高い。子どもたちのやってみたいという気持ちに加えて、保護者が子どもたちに体験させたいという想いもあると思われる。この事業を知ってもらえれば、多数の申込が期待できるので、きちんとした広報とトラブルのない調整に努めたい。

また、この事業を通じて、子どもたちが自身の食生活について考えたり、家族と食を通じた会話を楽しんだりしていただければ、費用はかかったとしても、きっと印象に残る事業になると考えている。

○会長

子どもたちにとって、専門の職人から直接教わる良い機会なので、料理の作り方だけでなく、職人の技や心意気なども伝える場にしてほしい。

○委員

厨房は非常に狭く、火の位置など大人に対応した造りになっているので、受入にあたっては店舗ごとに工夫が必要になる。

○委員

収支予算書にある報償費 15,000 円を、踏み台の作製費や職人の休日出勤手当に充てればいいのではないかと。

○委員

身内で謝金を出すのはおかしいと思うので、協力金などの名目にする必要があるのではないかと。

◇事務局

例えば、子どもたちを受け入れるにあたって必要な経費を、その場所の使用料として計上する方法も考えられる。

○委員

参加者一人にかかる経費が高い中で、事業費の一部が内部の報償費に使われるのは好ましくない。事業費の執行について、いい加減なことをしているように外部から映ることのないように注意していただきたい。

◇事務局

募集要領において人件費は助成対象外経費と明記しているため、この事業が結果的に採択された場合は、費用対効果の点も含めて、提案者とあらためて協議する。

○委員

実現可能性については不安なところもあるが、提案団体はキャンドルナイトやバルでの経験があり、そこに市の協力が加わることで、しっかりやっていただけるであろうと期待している。審査会の意見も参考にして、より良い事業内容にしていただきたい。

○会長

良い内容だと思うが、実際の運営で難しい部分が多々あると思われるので、関係課や市民協働推進課がしっかりバックアップをしていただきたい。今回の事業をモデルとして、全市的に広げるのも面白いのではないかと。様々な店舗が関わることで、産業活性化にもつながると思われる。

○会長

それでは、審査結果について、事務局でとりまとめていただき、各委員にチェックをお願いした後、市に報告書を提出する。

以上で審査会を終了する。